

## 富山港線のトータルデザイン

路面電車事業を新しい街づくりの推進力として生かす

### 背景

富山港線の路面電車化事業は、北陸新幹線の建設に伴う富山駅周辺の連続立体交差事業に関連して、利用者及び列車本数の減少傾向にある旧富山港線を、公共交通としての質を高め、コンパクトな街づくりを進める有効な方法として採用された。

### トータルデザインの目的

富山港線のトータルデザインは、上記のような背景を踏まえ、富山の自然、季節の食材、北前船の歴史や古い街並み、運河などの観光資産、ガラス工芸、アルミなどの地場産業、工業デザイン、ポスタービエンナーレ等のデザイン活動等々を背景に、富山市の地域性を表現した街づくりのリーディングプロジェクトとして機能させることが目的とされた。それを達成させるために、富山港線事業に関する多様な要素をトータルデザインという手法によってデザインし、個々の関係による相乗的な効果によって新しい街づくりの気運と空気をつくり、官民一体となった具体的な結果に反映させようとするものである。



### デザインコンセプト

トータルデザインの路線コンセプトは「TOYAMA CREATIVE LINE(街づくりと連携し、富山の新しい生活価値を創造する)」とし、その目標を「都市の新しい風景を作る。富山の新しい生活パターンをつくる。地域の資産を再発見する。地域の新しい価値を創造する。とし、車依存の社会から脱却し、高齢化社会に対応した楽しく歩ける住みよい街づくりの実現。富山港線を活用した地域情報の発信、地域資産の活用による新しい生活価値や風景の創造。質の高いデザインによる市民が世界に向けて誇れる路線環境づくりを目指している。

宮沢 功(関東ブロック)・島津勝弘(北陸ブロック)

### 取り組みの姿勢

以上のような目的を達成させるため、富山港線を構成する要素を総合的にデザインし、富山港線を中心とした都市環境として成立させ、行政、企業、市民の支援システムを導入し、その内容に対しても一定のデザイン的な質を確保するためにデザインオリエンテッドな取り組みを行い、ハードとソフト両面から都市環境としてデザイン効果が反映するように考えた。行政、企業、市民の参加支援は、行政として地域環境整備、交通計画、沿線都市整備、観光支援などを、企業は、店舗誘致・運営、電停空間の活用企画・運営、広告の企画・運営などを、市民に対しては、富山港線計画への参加、富山港線空間を活用した地域情報発信やファンクラブの結成などが期待された。



### 具体的なデザイン対象

デザイン対象は、車両、電停、VI、各種アプリケーション、ユニフォーム等多岐にわたるが、電停に設置された個性化スペースは、各電停周辺の地域特性を選定し、地元のデザイナーによってデザインしたものを企業がスポンサーしている。地元情報の発信と駅空間の個性化、沿線の楽しさ、そして企業参加による新たな広告手法の可能性を示唆した方法である。

